

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年九月度 入選句（投稿総数千八百七十一句・一般投句数六百八十八句）

特選

脳天を刻む兄鼓 秋の夜 岐阜市 堀江 美州

「兄鼓」（えづつみ）は、太鼓の大きい物。秋の夜ですから、秋祭りなのでしょう。境内に吊された太鼓が、秋の豊作に感謝し、打ち鳴らされている情景が浮かびます。「脳天を刻む」とは、ちよつと大げさのようですが、それほどまでに大きな太鼓の音が響いてきたのです。秋祭りの賑やかな様子まで浮かんできます。

豆電球消して名月と眠る 岐阜市 後藤 衣錦

今年の名月は、とても素晴らしいものでしたね。皆さんも見られましたか？その名月を楽しんでいる作者の様子がよく分かります。「豆電球消して」「名月と眠る」二つの内容が、名月の素晴らしさを表すのに十分ですね。名月を楽しむためには、余分な灯りは必要ありません。そして、「名月と眠る」作者の「名月」への想いがよく伝わってきます。

萩しだる古刹に掬ぶ延命水 不破郡垂井町 白井 梅乃

古寺にわき出る水。浄土の水だろうか。そして、しだれ萩。「古刹」の趣が、見事に表されています。俳句はその情景から、自分の感じ取った「心」を表すものです。作者はやはり長生きをしたい思いがある。句の中に「掬ぶ」「延命水」と自然に表現されている点もよい。また、季語「萩しだる」は、萩の咲き誇る現実と「延命水」との「付きすぎず、離れすぎず」よい距離を保っているのもよい。

秀逸

蓮の花分けて田舟の堀めぐり 大垣市 三宅 ヒサエ

古文書の講座最中の秋扇 大垣市 安田 直隆

五才児もプライドみせる運動会 大垣市 安福 けい子

畏まる神の怒りか秋出水 大垣市 吉田 てるみ

書道展墨の余白の涼新た 養老郡養老町 田中 秀子

虫の音の止みて平らか夜の闇 養老郡養老町 田中 紫香

風ふけば風になりきる稲穂かな 不破郡垂井町 竹嶋 富美子

地球儀を廻してさがす秋の空 大垣市 秋山 くに子

待宵や黄ばみ目立ちぬ文庫本 大垣市 白井 秀子

入選

図書館やページ進まぬ夏の午後  
 折紙の手始めに鶴終戦日  
 曳山の明かりこぼれし川模様  
 枝豆や畑のにほひも口の中  
 秋蝶の羽音なけれど影の濃し  
 手をひろげその瞬間に蚊を叩く  
 レールバスの鉄路両側富有柿  
 八月や長き塀拭く新莊長  
 初秋やサラダ盛る皿替へてみる  
 傘寿なほ余熱あるらし花火屑

大垣市 平野 きぬよ  
 大垣市 永井 田鶴子  
 瑞穂市 辻 貴仁  
 大垣市 平野 きぬよ  
 大垣市 矢橋 郁子  
 大垣市 谷 彩虹  
 大垣市 久保田 悟義  
 愛知県名古屋市 小松 とみゑ  
 大垣市 早崎 美弥子  
 不破郡垂井町 高木 巧

入選

末っ子の涙大粒金魚の死  
 出穂の匂いもぬくし散歩道  
 鈴虫のリズム高まり闇を抱く  
 吹かれ来て吹かれてゆきぬ川蜻蛉  
 敬老会なじみの顔の齢比べ  
 哀調の音色誘いし風の盆  
 赤とんぼそっとさし出す小さき指  
 小鳥来るポップコーンのはじけ飛ぶ  
 一陣の風の玩具に秋桜  
 鬼灯や手向けし花に色添えて

大垣市 町野 眞佐子  
 大垣市 草野 恵子  
 三重県四日市市 平野 透  
 大垣市 日比野 友子  
 大垣市 木村 一句  
 大垣市 谷 睦月  
 大垣市 片山 洋紅  
 大垣市 名和 よちゑ  
 大垣市 大西 誠一  
 大垣市 傍島 豊子

選者吟

神の庭砂利踏む音も空も澄む

永山